

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	
ディスティネーションデザイン！ アジア経済圏におけるファッション産業集積拠点「福岡」の成長を担う専門的職業人「Kブランド人材」の育成 ～高度な資質・能力を育む産学接続型教育プログラムの開発を通して～	
2 研究の概要	
鋭い感性や豊かな創造力などの高度な資質・能力を身に付け、グローバルな視野を持って福岡から“クールジャパン”を発信する人材を輩出するため、福岡商工会議所等の協力機関との連携・協働の在り方について協議を開始するとともに、以下の学習プログラムの開発及び目標に対する効果測定の方法に関する研究を行う。 ア 唯一無二のデザインを生み出す創造力を育む「福岡発ファッションイベント企画・運営実習」 イ 可能性を広げるワールドワイドな鋭い感性を育む「世界のファッション文化を学ぶ海外研修」 ウ “美”の文化を複眼的に捉える洞察力を育む「郷土の一級品に触れる実習・体験活動」 エ グローバルに活躍するための基礎となる語学力を育む「English for fashion students」	
3 平成30年度実施規模	
ファッションデザイン科を対象として実施した。	
4 研究内容	
●研究計画（指定期間満了まで）	
第1年次	【学習プログラムの開発】 ・福岡商工会議所や地元産業界、大学など協力機関との連携のあり方について協議を開始 ・研修プログラムの企画、協力機関との調整及び実施 ・ファッション英語カリキュラム及び教材の開発（1年次）等 【目標に対する効果測定】 ・ルーブリックの開発 ・アンケート調査の実施等
第2年次	【学習プログラムの開発】 ・1年目実施プログラムの検証と改善及び実施 ・多面的評価方法の研究 ・体系的な3年間の指導計画の構造化・具体化構想 ・ファッション英語カリキュラム及び教材開発（2年次）等 【目標に対する効果測定】 ・2年間のアンケート、生徒の活動記録等の分析 ・高度資格の指標の在り方についての研究
第3年次	【学習プログラムの開発】 ・2年目実施プログラムの検証と改善及び実施 ・多面的評価方法の研究 ・体系的な3年間の指導計画（学びの地図）の完成 ・ファッション英語カリキュラム及び教材の開発（3年次）等 【目標に対する効果測定】 ・3年間のアンケート、生徒の活動記録の最終分析 ・最適な産学接続教育プログラムの策定 ・高度資格による指標の在り方についての研究
○平成30年度の教育課程の内容	
SPH最終年度の取組を通して、より高度な学びを生み出すカリキュラム・マネジメントの充実を図り、教科横断的な視点から3年間の学びを俯瞰する3年間の指導計画である「学びの地図」の完成を目指した。	
○具体的な研究事項・活動内容	
1 研究事項	
(1) 学習プログラムの開発	
ア 協力機関との連携・協働の推進 昨年度に引き続き、福岡商工会議所をはじめとして、多くの地元ファッション企業関係者との意見交換により、産学連携に向けた良好な協力体制づくりに努めた。	
イ 学習内容の明確化 「どのような力を身につけさせるか」「何を学ばせるか」「そのために、いつ、どのように学ばせるのか」等の視点に立って、各事業を年間指導計画に位置づけて企画・立案し、それぞれのプログラムを実施した。	
(2) 目標に対する効果測定（評価方法）	
■定性的な評価	
ア 学びの高度化	

昨年に引き続き、全教科において横断的視点により年間指導計画を作成することで、学ぶ内容に関して共通教科との広がりを生み出すとともに、専門教科においては、年間指導計画における指導目標の明確な位置づけと、ルーブリックによる客観的評価を実施した。

イ 身に付いた力の見える化（アンケート・意識調査の結果から）

個別の事業成果を把握するため、昨年度に引き続き生徒・職員・外部協力機関向けのアンケート調査を実施するとともに、生徒の成長を継続的に図るために生徒意識調査を実施し、生徒の意識の変容について最終分析を行った。

■定量的な評価

ファッション産業で活躍できる資質の習得状況を把握する指標として、ファッションに関する高度資格の取得率を用いることとし、色彩検定（文部科学省後援）1級、ファッション販売能力検定（日本ファッション教育振興会）2級とあわせて、その他の検定についても積極的に指導に取り組んだ。

2 活動内容

(1) English for fashion students (全学年) (例 写真1~3)

英語と専門科目の教科横断的カリキュラムを多く含む3年間の学習プログラムを完成させるとともに、評価についてはルーブリックを作成し、評価の観点を具体化して、評価内容を生徒に還元することで、深い学びにつなげた。カナダ研修旅行では、公共交通機関を使用した班別学習ができるようになるなど、年々、英語力が向上している。しかし、事前に準備するプレゼンテーション等の力は向上したものの、現地での会話を聞き取るのが難しいという課題も見られたため、本年度から英語の授業では、毎時間、その場で課題を与えて英語を話すトレーニング等も取り入れた。

〔ファッション英語〕

ファッションに関するリスニング教材の活用やグループ活動の工夫に取り組むなど、英語を理解し、英語でアウトプットすることができるようにプログラム開発を行った。

4月~3月 1~3年生の指導カリキュラム及び教材の開発

6月（3年生）11月（1年生）3月（2年生） 英語教育の専門家を招聘した研究授業

〔ファッション版イングリッシュ・キャンプ〕

終日英語のみで聞いたり話したりすることで実践的な英語力を向上させるとともに、英語によるプレゼンテーションなどを通して、ファッションに特化した英語の運用能力の向上を図った。

7月（3年生）10月（2年生）2月（1年生） ファッションデザインに関するプレゼンテーションやネイティブスピーカー等との交流等

関係科目：「英語表現Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」

協力機関：西南女学院大学（専門家の派遣）なみきスクエア（会場の提供）

実施場所：なみきスクエア（福岡市）、本校



写真1 オリンピックユニフォームのデザイン画の英語による説明 (1年生)



写真2 カナダ研修旅行での現地大学生への日本文化紹介の英語によるプレゼンテーション練習 (2年生)



写真3 英語による商品販売のデモンストレーション (3年生)

(2) 郷土の一級品に触れる実習・体験活動 (1・2年生) (写真4・5・6)

生徒個人が独自のものさしを築くことを目指して、郷土の伝統工芸等の考え方や価値及び「美」の文化について学んだ。人間国宝井上萬二氏の「90歳になった今でも、世界様々なところに旅して新しいものを作り、常に挑戦を続けており、作品製作には『常に努力』『常にクリエイトする』『常に考える』ことが必要である。」などの経験に基づく数々の言葉や工房見学・体験活動を受け、独自のものさしを築いた。

6月 久留米絨・博多織に関する特別授業 (1年生)

7月 博多織実習に関する特別授業 (2年生)

11月 日本の美の文化やアジアとの交流史等に関する特別授業 (2年生)、和装コーディネート等に関する特別授業 (1年生)

12月 白磁に関する特別授業 (1年生)

関係科目：「生活産業基礎」「服飾文化」「服飾手芸」

協力機関：久留米絨織元「森山絨工房」、博多織「千年工房」、九州国立博物館、博多織工業組合、

博多呉服商組合「呉服のたかはし」、白磁井上萬二窯
実施場所：福岡県広川町、那珂川市、太宰府市、福岡市、佐賀県有田町



写真4 博多織・久留米餅の体験活動(1年生)



写真5 白磁についての特別授業(1年生)



写真6 和装コーディネート(1年生)

(3) 世界を感じる「世界のファッション文化を学ぶ海外研修」(2年生)(写真7・8・9)

世界で活躍するためのツールとして学んでいる英語、郷土の一級品に触れて自分なりのものさしを築いた生徒たちが、高いブランド力を有する欧米のファッション文化に直に触れ、世界水準のデザインや世界から見た日本について学ぶ学習プログラムである。

〔世界のファッション文化学習会〕：2年生 9月4日

カナダ研修の事前指導として、ファッションの専門家による特別授業を実施(2年生)

関係科目：「ファッション造形」「ファッションデザイン」「服飾手芸」「服飾文化」

協力機関：文化服装学院(専門家の派遣)

実施場所：本校

〔カナダ研修〕：2年生 1月9日～14日

今年度は、3年生の商品企画の授業に支援をいただいている世界屈指のカナダのインターネット販売等を展開するEC企業であるShopify本社を訪問した。講義を受けた生徒は「何事にも、必要であれば変化をさせながら、より高いところを目指して取り組んでいこうと思った。」と感想に記した。社員の方々からは、生徒の学校活動を説明したプレゼンテーションを聴いて「amazing」という評価をいただいた。また、昨年同様、公共機関を用いた班別行動を行ったが、年々、英会話力が向上しており、本年度はさらに充実した研修となった。これにより、専門性の深化と学ぶ意識の高揚を図るとともに、多様性を認め合うカナダの人々の考え方や文化・街並みに直接触れることで、豊かな国際感覚と広い国際的視野を向上させることができた。

「Shopifyオタワ本社訪問」「ジョージ・ブラウン・カレッジでの学習・交流活動」「トロント・ファッション・インキュベータでの学習・交流活動」「トロント市内グループ研修」

※1月15日：「作品発表に向けた素材の調達」(東京都日暮里繊維街)

関係科目：「ファッション造形」「ファッションデザイン」「服飾手芸」「服飾文化」

協力機関：近畿日本ツーリスト(現地機関との調整)

実施場所：カナダ(トロント)各会場



写真7 カナダShopify訪問(2年生)



写真8 カナダトロント
インキュベータ訪問(2年生)



写真9 班別行動(2年生)

(4) 福岡発ファッションイベント企画・運営実習(全学年)

産業としてのファッションについての理解を深め、ビジネスに繋げる視点を加味したクリエイション能力の向上を目的として次のような実習を実施した。

ア 1～2年生

明確な将来の目標を持ち、高い意識を持って学んでいる1・2年生の生徒10名をオーディションにより選抜し、東京(H30度)で職業理解研修を実施した。今年度の訪問場所の一つ、コシノジュンコデザインオフィスでは、コシノジュンコ氏に直接講義をいただいた。生徒は印象に残った言葉として「私は地元を離れているが、故郷で過ごした日々が支えになっている。現在の学びが原点になることを忘れないで欲しい。」を挙げ、自分たちが取り組んでいる郷土の一級品に触



写真10 職業理解研修（東京研修）



写真11 商品企画コレクション実習



写真12 フィッター体験実習

れる実習・体験活動でものさしを築く取組につながる話をいただいたことに感動したと記した。

イ 2・3年生

ファッションショー（以下、F S）は、様々な実習や体験活動で磨いた感性を生かした作品製作や、より本物に近づくためのウォーキング実習を取り入れることで、昨年と比較して、質や技術が向上したとの評価をいただいた。校内のF S後、海外や日本でブランドを運営されているプロのデザイナーの方々から本学科F Sと世界のコレクションのV T Rの比較解説などをいただき、ビジネスの視点を持ったことにより、企業や地元協力団体の方々と企画・運営の校外F Sの実施が可能になった。また、福岡の街をファッションで盛り上げることを目的に開催される「ファッションマンスフクオカアジア」のマッチングミーティングに参加し、福岡のショッピングの中心街にある博多大丸で、F Sを実施した。



写真14 校内ファッションショー

写真15 校外ファッションショーに向けて

写真16 ファッションマンスミーティング

写真17 博多灯明ウォッチング

平成29年度のF Sがきっかけで、キャナルシティ博多のインフォメーションスタッフの制服デザイン・製作を依頼され、これを通してビジネスの厳しさを体感させることができた。今年度も同様の体感ができるための土台を作るために、1学期、異なる分野のファッション会社の方々の授業で、柱を決め、自分たちの能力で製作可能なできるかぎりハイクオリティな商品の製作に取り組み、お客様に喜んでいただくことの大切さを学んだ。2学期から外部協力団体である株式会社P e a r とカナダのS h o p i f yと協働して授業を進めた。本校のブランドである「Kブランド」をもとに3学年独自のブランドCONNECT：を立案、柱となるブランド名は毎年違えることとした。製作時間20時間で、クオリティが保てるアイテム5種3型の15種類、80着を製作した。スポンサーによる生地提供などに感謝し、お客様に喜ばれる商品を目指して製作した。自身が使用するものしか製作経験がないため、複数の商品の期限内完成、同一商品の仕上がりの統一、商品としての価値等、新たな体験をさせることができた。今回の製作物は、インターネットで販売する予定である。次年度取り組む2年生は、新たにカナダ研修で外部協力機関であるS h o p i f yから学ぶとともに、3年生から本年度のノウハウを引き継ぐ。1学期の講義で、講師の方々から「初めからうまくいくことはない。甘くない。大切なのは、失敗してもそれを糧にすること。」という言葉いただいた。次の学年の生徒が分析し、①売れたものは、さらに工夫を加えてバージョンアップし、②売れ残ったものは、徹底的にその原因を探り、同じことを繰り返さないようにすることで、学年を越えたKブランド経営を行っていく予定である。



写真18 キャナルシティ博多インフォメーション
制服デザイン・製作



写真19 商品企画についての特別授業



写真20 平成28年度生Kブランド「CONNECT：」



5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

(1) SPHの各事業を通して

- ・本研究の4本柱の一つである「福岡発ファッションイベント企画・運営実習」において、本校文化祭ファッションショーから始まり、ビジネスの視点を持ちながら、それぞれの校外開催場所、客層、テーマなどにあわせた演出による8回のファッションショーを行い、SPH事業の普及に努めている。なお、実施の際は、プレスリリースや近隣中学校への案内、本校HP・同窓会HPへの掲載、JR香椎駅でのポスター掲示を行っている。
- ・3年生の「ファッションデザイン」(商品企画)の授業で、菅公学生服株式会社から出された制服に関する課題のプレゼンテーションの様子が、織研新聞に掲載されるとともに、提案したデザインで制服を製作していただき12月の同社展示会で展示された。また、2学期からの授業「Kブランド起業」は、株式会社PearとカナダのShopifyの協力を得ながら実施し、日本経済新聞に掲載された。
- ・全国産業教育フェア山口大会2018、平成30年度福岡県産業教育フェアで、2・3年生が発表した。

(2) 学校全体で実施した広報

本校グランドデザイン実現に向けて、教科横断的視点と観点別評価による各教科指導を活用する場面の設定の一つとして、SPHを学校全体で取り組んでいることを説明した。

(3) 他の団体と連携した広報活動

本校の取組を各団体の研修会等で発表する際に、SPHがグランドデザイン実現に向けた取組の一つであると位置づけて説明した。

(4) 小高連携事業、中学生体験入学、中学生進路相談事業

○実施による効果とその評価、実施上の問題と今後の課題

(1) 成果

ア 企画・運営力を更に高めるための教育活動による学びの地図の完成

福岡商工会議所をはじめ、外部協力機関との連携企業との協働によるファッションショーの企画・運営や、生徒が製作したオリジナル商品企画による「Kブランド」の起業を通して、生徒の企画・運営力を更に高めるための教育活動に取り組み、学びの地図を完成させた。(図1)

イ 教育の質を維持できる体制づくり

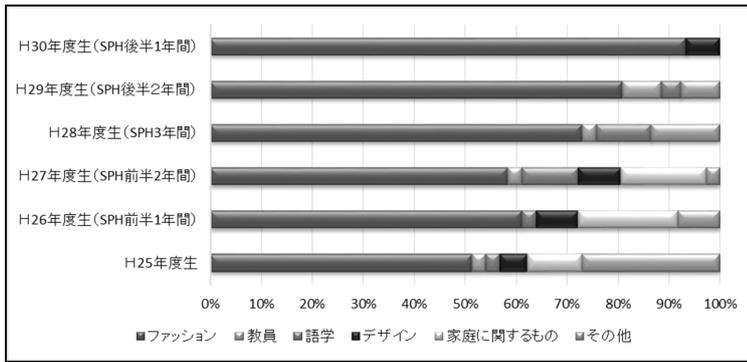
福岡発ファッションイベント企画・運営実習におけるファッションショーや商品企画等は、教員の異動に関わらず、教育の質を保つために、SPH初年度の平成28年度から3年間かけて体制づくりに取り組んだ。具体的には、ファッションショーは、当該3年生の担任の他、赴任して早い段階で指導経験を持てるようにした。新たな取組を行っている「ファッションデザイン」の商品企画も、次年度につながるように複数で担当した。

ウ 3年間の生徒の変容を可視化

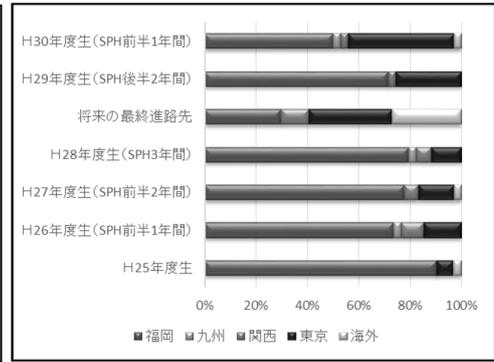
平成25年度からの進路先の年度比較(グラフ1)によると年々ファッションへの進路選択者が増加している。平成28年度入学生(現3年生)の最終進路は、78%がファッション関係で、中には英語を学習してからファッションや経営という進路を選択した生徒も見られた。1・2年生でファッションに関する職業への志望生徒が増加している要因として、入学時に持っていた目的意識をその後も継続しながら高校生活を送ることができたことによると考えられる。卒業後の進路地域の年度比較(グラフ2)によると、SPH指定以降の3年間は20%が福岡県外の進路を選択し、1・2年生の進路志望地域は多様化している。また、平成28年度生の将来の最終進路希望先は、東京・海外、世界規模で活躍したいという生徒が多く、技術を身に付けた後は、福岡を拠点にグローバルに活躍したいという生徒も見られた。本校のSPHは、最終的に高い知識・技術を身に付けた人材が



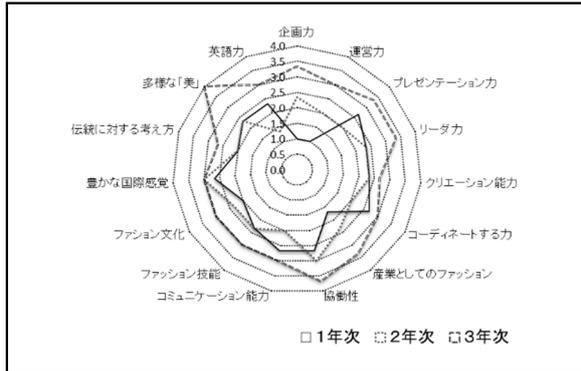
図1 SPHの学びの地図



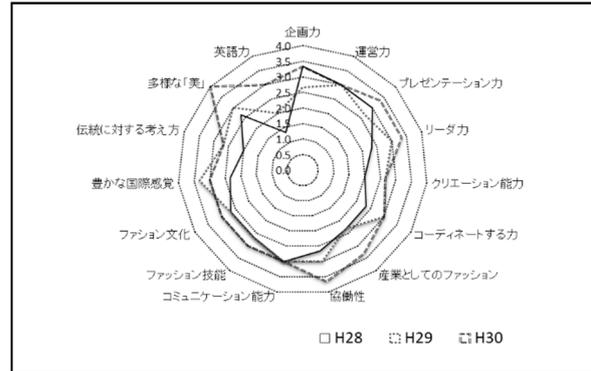
グラフ1 卒業後の進路先及び進路希望先



グラフ2 卒業後の進路地域及び進路希望地域



グラフ3 ルーブリックによる3年生リーダーの自己評価の年度比較



グラフ4 ルーブリックによるH28年度生リーダーの自己評価の年度比較

福岡へ凱旋し、ファッションリーダーとして第一線で活躍することを目的としたことから、この考えを持つ生徒を育成できたと言える。ルーブリックによる自己評価のグラフから、①3年生リーダー（グラフ3）は、年々自己肯定感が向上する傾向が見られ、②平成28年度生のリーダー（グラフ4）は、学びを通して自信がいった、などの変容が見られる。また、全生徒の学年比較の結果も同様に、1年生よりも2年生、2年生よりも3年生と評価が高くなる傾向があり、3年間の学びが自信につながっていると考えられる。さらに全生徒の年次比較では、3年生の自己肯定感は増加の傾向にあるが、平成30年度入学生が低い評価をしている生徒が多いことから、今後課題を自らに課することができる生徒の増加が伺える。

(2) 今後の課題

今後は、外部協力機関、卒業生と本校が連携・協働し、生産・加工・流通販売を一体化した学校内ベンチャー企業を起業し、生徒がデザインの企画から縫製、販売を一貫して体験できる教育課程の構築を考えている。(図2上部) 次年度は、SPHで培ったエッセンスを残した上で、3年生のKブランド実習が、その後の生徒の進路や関心に応じて、リーダーとしての実践ができるように、経営の組織化を図りたい。図3は、3年間の学びをファッション業界の分野毎にしたものである。本学科のカリキュラムは、ファッションに関する全分野の基礎的な知識や技術を身に付けられるため、例えば、デザイナーでも、縫製・販売を理解して仕事ができるという点で、高い評価をいただいている。

このことから、授業では現在のカリキュラムを維持しながら、1年生から分野を意識して学ばせた上で、Kブランドを用いた進路や将来の目標に応じた分野でのリーダーの経験や、バーチャルではない体験的な授業の充実を図りたい。



図2 次年度の3年間の学び